

市長（作野広昭君）

先ほどから申し上げましておるとおり、今計画をつくっております。それは当初予算で皆さんにお認めいただきました予算で、現在東京のコンサルタント会社をお願いをいたしております。

このコンサルタント会社は、JRのそういう新駅を携わったことがあるという、基礎調査をして計画を練ったことがあるというコンサルタント会社でございます。

これも一発でそこに行ったわけなしに、いろんなところの打診をしながら、この業者を選定をいたしました。これに若干時間もかかりました。が、その会社に今、川北町や野々市市や白山市、能美市の都市計画のプラン、その中には道路の線形、観光の要所、その他これから3市1町がしたいこと全てをこの会社に今情報を伝達してございます。

その情報をもとに、この駅を中心としてどのような形で将来駅ができたらどのようなのかということは今計画を練っていただいております。

そのことによりまして、道路線形やいろんなこと、将来その町の規模の発達度合いですね。野々市市が伸びている、川北町も伸びている、能美市も人口が伸びておると、そういうことを全部勘案して、どれだけ人口がふえて、どれだけ乗降客が見込めるのかということ推察推移のデータをつくっております。

それが来年2月、今年度中ですから来年2月、3月にはでき上がるということです。これは県も当然知っておりますし、1次答弁にもございましたし、我々も何回か言っておると思います。

そのデータが仕上がり次第、機構、JR、国交省、県、当然全てのところに、また、そのデータを持って白山市新駅はこういう需要予測調査があつて、もちろん、そのデータを見なければわかりませんよ。そのデータのことを伝えて、新駅の必要性を訴え

てまいりたいと、このように考えております。

どう広報していくのかということでもありますけれども、市の広報はくさんなり、あさがおテレビでの市長の報告会、そして各種団体の市政報告会とか、いろんな媒体を使いながら発信をしていきたいというふうに思っております。

白山市新駅の構想に対しての反響ということでもありますけれども、3市1町の各種団体は賛同していただいておりますし、期成同盟会に皆さん入って御支援・御協力いただくということで、期成同盟会を結成させていただいております。

期成同盟会の中には、ほぼ全ての各種団体を網羅するようなところが入っておるとは御存じのとおりだというふうに思っております。

全てのことが全て100%ということはありませんけれども、現在の北陸新幹線が計画された段階で、長年何十年にわたって今の金沢開業、敦賀、大阪方面の新幹線が通ることに対しても住民から多くの反対がありましたし、長年にわたりまして反対運動もありましたし、大きな看板も設置されておりました。

しかし、年月とともにそういう住民理解が進んで、今ではそういう北陸新幹線が要らないという人は私はいないような状況になったのではないかなというふうに思っております。

理解されるには確かに情報発信は必要ですが、時間も必要であろうというふうに思います。極力その時間を縮めていくことを努力してまいりたいと、このように思っております。